

医療ソーシャルワークにおける専門的実践に関する現状と課題**ーソーシャルワーカーの内的条件に着目してー**

○ 福岡県立大学大学院/医療法人相生会 福岡みらい病院 氏名 川上 里菜 (010240)

キーワード：医療ソーシャルワーク、内的条件、専門的実践

1. 研究目的

医療の現場では近年、全人的医療や地域包括ケアシステムなど患者の治療のみならず、生活の視点を取り入れた支援の展開が求められるようになってきた。そのため、生活支援を行うソーシャルワーカーの必要性が高まり、専門職として効果的なソーシャルワーク実践を行うことが期待されている。しかし、実際に行われているソーシャルワーク実践は、さまざまな困難性もあり専門性を発揮できているとはいえない状況にある。

そこで、本研究では医療ソーシャルワークにおける専門的実践に関する現状と課題について明らかにし、ソーシャルワークの専門性を発揮した実践を実現するためにソーシャルワーカーの内的条件に着目した研究の必要性を考察することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、専門的なソーシャルワーク実践において重要といわれているソーシャルワーカーの内的条件に着目した研究の必要性を考察する。内的条件とは、ソーシャルワーカーがソーシャルワークの基盤を内在化させ、そのことを認識することで実践においてその基盤を意識化し、実践の根拠や判断を言語化するという一連のプロセスのことである。この内的条件を整え、ソーシャルワーク実践を行うことが専門職としての実践の枠組みであるという視点で研究を進める。

研究方法は文献研究である。

3. 倫理的配慮

本研究は文献研究であるため、倫理審査を必要としない。本研究は、日本社会福祉学会「研究倫理規定」、「研究倫理規定にもとづく研究ガイドライン」を遵守し、引用する際には自説と他説を峻別し、出典を明示している。本報告に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はない。

4. 研究結果

医療の現場におけるソーシャルワーク実践では、①業務の増加・複雑化、②ソーシャルワーカーの役割のジレンマ、③ソーシャルワーカーの組織における位置づけ、④専門性のあいまいさといった内的要因、外的要因が関連しあって困難性を引き起こしている。また、ソーシャルワーカーはソーシャルワークに専門性があることは理解しているものの、その

専門性と自らの実践を結びつけることができているとはいいい難い現状が明らかになっている（南 2000；2004；秋山 2007）。このようなことから、現状のソーシャルワーク実践はソーシャルワーク本来の機能を十分に発揮させることができているとはいいい難く、危機的な状況にあるといえる。そのため、ソーシャルワーカーは、専門職として専門性を発揮した効果的なソーシャルワーク実践を行えるようになることが課題であるとわかった。

専門的なソーシャルワーク実践を行うためには、ソーシャルワーカーの内的条件を整えることが重要である。先行研究（南 2000；2004；秋山 2007）をみる限り、ソーシャルワーカーは内的条件に何らかの課題があることで専門性を実践に結びつけることができていない現状がある。しかし、内的条件のどの段階に課題があって専門性が実践に結びついていないのかはまだ明らかになっていない。すなわち、この課題が明らかにならなければ、いくらソーシャルワークの価値や理論、技術を学んだとしてもそれらを実践に反映させることは困難なままであり、専門的な実践ではなく属人的な勘や経験に基づく実践がなされてしまうのは明らかである。

5. 考察

ソーシャルワークを体現するソーシャルワーカーの内的条件が整うということは、自らの専門性の認識や自覚という内的要因から生まれるソーシャルワーク実践の困難性を打開することにつながる。また、ソーシャルワーカーが専門的な実践を行うことで、患者・家族、他職種や組織、社会のソーシャルワーカーに対する認識が変わり、ソーシャルワーク実践に困難性を引き起こしていると考えられる業務の増加や組織の位置づけなどの外的要因も良い方向へ変化していくことが期待される。このように、ソーシャルワーク本来の力が発揮しやすい環境になることで、ソーシャルワークをより有効に機能させることができ、多くの患者・家族が専門的で効果的な支援を受けることができるようになる。このことは、病気や障害、さまざまな生活上の困難があっても、患者が自己決定し、自分らしい生活を実現させながら豊かな人生を送ることにつながると考える。

このような専門的な実践を実現させるためには、ソーシャルワーカーの内的条件に着目した研究の視点に立ち、内的条件の課題を明らかにすること、その課題に対して有効な取り組みを考察することが今後の研究課題と考える。

<主要な参考文献>

秋山智久（2007）『社会福祉専門職の研究』ミネルヴァ書房。

南彩子・武田加代子（2000）「医療ソーシャルワーカーの職務の特徴 — アイデアイメージと実践的意識の比較 —」『社会福祉学』41(1), 111-20.

南彩子・武田加代子（2004）『ソーシャルワーク専門職性自己評価』相川書房。